

低温に対する農作物被害防止対策

令和5（2023）年1月23日
上都賀農業振興事務所経営普及部
上都賀地域農業気象災害対策協議会

気象庁1月19日14時30分発表の低温と大雪に関する早期天候情報（関東甲信地方）によると、25日頃からかなりの低温なるとの予想で、天気予報でも25日の宇都宮の最低気温は-6℃予想となっており、それ以下に下がる可能性があります。
大雪になる可能性もありますので、事前の対策をお願いします。

I 事前対策

1 情報収集

- (1) テレビやラジオ、気象庁ホームページ、とちぎ農業防災メールなど、幅広く情報収集を行なう。
 - ・気象庁HP（天気予報）
https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=offices&area_code=090000
（低温と大雪に関する早期天候情報）
https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/?reg_no=20
 - ・とちぎ農業防災メール
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kisyousaigai/26nougyoubousaimail.html>

2 暖房機等の準備

- (1) 燃料の残量を確認する。
- (2) 暖房機の保守点検を行い、正常作動を確認する。
- (3) 温度センサーを点検する。
- (4) 送風ダクトを配置し、循環扇を利用する。

II 低温時の対策

1 ハウス

- (1) ハウス各部の損傷や緩み等を点検し、気密性を高める。
- (2) 制御装置の設定と正常作動を確認する。
- (3) 作物が生育中の場合は、保温対策としてビニル、保温マット等でトンネル被覆をするか、べたがけ資材を被覆し、保温に努める。
- (4) ハウスサイドやカーテン裾を隙間無く確実に閉める。

2 野菜

(1) いちご

- ア ハウスは夕方早めに閉め、ハウス内の保温に努める。
- イ ウォーターカーテンハウスでは、夕方の稼働開始時間を早め、また、朝の稼働終了時間を延長し、温度の確保及び凍結防止に努める。
- ウ ハウスのサイドビニールが凍結している場合は、換気時に無理な力がかかり、モーターやビニールの破損につながる可能性があるため、早急に氷凍結部分を除去してから換気を行う。
- エ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。
- オ ハウス内が多湿になると灰色かび病、菌核病が発生しやすくなるため、適宜古葉を摘

除するとともに、病害予防のため殺菌剤を散布する。

(2) トマト

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、暖房機を積極的に稼働し地温の上昇に努める。
- イ 循環扇が導入されているハウスでは、温度差の解消や病害発生の予防のため、ハウス密閉時に稼働する。
- ウ ハウス内が多湿になると灰色かび病、疫病等が発生しやすくなるので、損傷した茎葉を摘除するとともに、病害予防のため天候の回復を待って、登録農薬を散布する。

(3) にら

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、1週間程度はやや高温管理とする。
- イ 白斑葉枯病、株腐細菌病等の予防のため、登録農薬を散布する。

(4) きゅうり

- ア 低温障害の程度が軽微な場合は、被害部分を切り取り草勢の回復を図る。

(5) アスパラガス

- ア 低温障害を受けて植物体が傷んだ場合は、速やかに切り取る。

3 果樹

- (1) 苗木や幼木は、主幹部に稲わらを厚く巻きつけるなど、防寒対策を徹底する。
- (2) 強い冷え込み後は、芽枯れや紫変色枝枯症等の発生が懸念されるため、枝の状態を確認しながら剪定作業を進める。
- (3) 根圏制御栽培は、かん水設備等の水抜きを再確認し、凍結による機材の損傷を防止する。

4 花き

(1) きく・ゆり

- ア 低温障害を受けて花が傷んだ場合は廃作とし、次作の準備をする。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。

(2) ばら

- ア 低温障害を受けた花は速やかに切り取り、樹勢の回復を図る。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。
- ウ 樹勢が回復するまで、給液量や肥料濃度は抑え目にする。

(3) カーネーション

- ア 低温障害を受けた花は速やかに切り取り、草勢の回復を図る。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、ハウス密閉時に稼働させ空気の流れを作る。

5 畜産

- (1) 換気を行う際は、日中の暖かい時間を見計らって家畜に直接風が当たらないように、畜舎全体の空気をゆっくりと入れ替える。
- (2) 幼畜の飼養場所が寒くないか、隙間風が入ってこないか確認し、ヒーターやジャケットを利用するなどして保温に努める。
- (3) 給水器や凍結防止ヒーターを点検し、流し水等の凍結防止対策を行う。

(注意)

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。